

稲作の大規模法人経営に 取り組んで

2015.11.26

有限会社 横田農場

代表取締役 横田修一



1

経営の概要

- 法人設立 平成8年1月4日
- 役員2名、社員11名（生産5名
精米2名、研究1名、加工3名）
パート5名（加工部門）
- 主要事業 水稻の生産・販売、加工品の製造販売
- 経営面積 125ha（平成27年作付、ほぼ円滑化団
体・中間管理機構を通じて利用権設定済み）
（うち加工用米27ha、備蓄米12ha、飼料用米4ha）
- 作業受託 延べ20ha



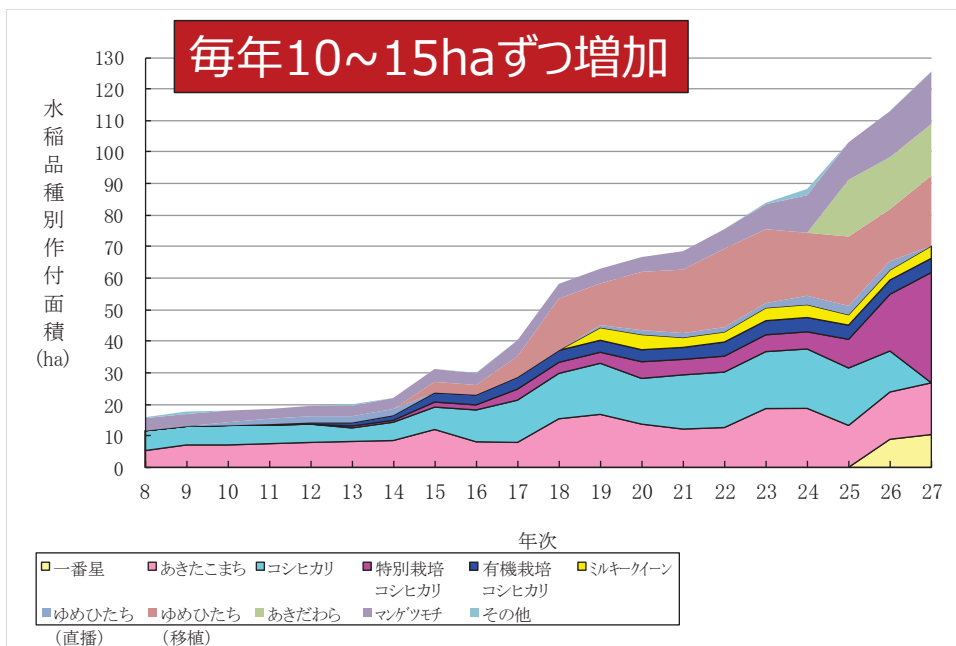
2

経営の展開過程

- 平成8年 法人設立
- 平成10年 一般消費者への直売開始
- 平成13年 有機JAS認定、いばらきエコ農産物認証
- 平成15年 子供たちとの環境教育、食農教育イベント
「田んぼの学校りゅうがさき」開始
- 平成18年 農産物（米）の登録検査機関
- 平成19年 不耕起乾田直播栽培
- 平成23年 鉄コーティング湛水直播栽培
- 平成25年 農林水産祭天皇杯
- 平成27年 ライスセンター竣工

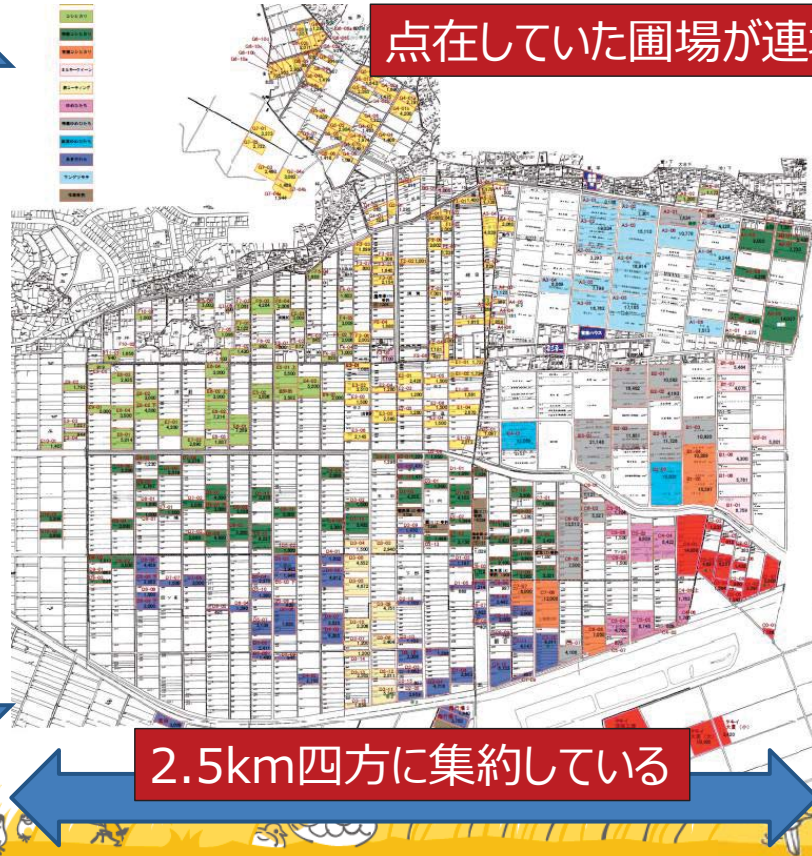


経営の特徴① ～規模拡大～



経営の特徴② ～圃場の分散～

点在していた圃場が連坦化



2.5km四方に集約している

5

経営の特徴③ ～機械1台体制～

- 田植え（4月下旬～6月下旬）
耕起1名、代かき1名、
田植オペレータ1名+補助1名
播種、水管理・除草剤、基肥散布等3名
- 稲刈り（8月下旬～10月下旬）
コンバイン1名、籾運搬・隅刈り2名
乾燥・調製3名



少ない機械、人員を効率的に稼働させ
作業期間を長くすることで、急激な規模拡大に対応させる

6

経営の特徴④ ～販売戦略～

- 消費者直売……Webサイト、スーパー
- 業務用米……レストラン、お弁当
- 加工用米……日本酒、米菓、包装もち
- 政府備蓄米……自ら入札
- 飼料用米……養鶏家との繋がり



販売価格の安定化とリスク分散



7

経営の特徴⑤ ～ファンづくり～

- ターゲットを明確化……若いお母さんと子ども
- 入口を広げる努力……米粉スイーツの導入
- CSR、教育プログラム……田んぼの学校
- 情緒的価値の付加……数値で計れない価値



災害や市場価格の変動に影響を受けない「ファン」の獲得



8

経営課題

課題

- 規模拡大
- コスト削減
- 販売戦略
- 事業の継続性

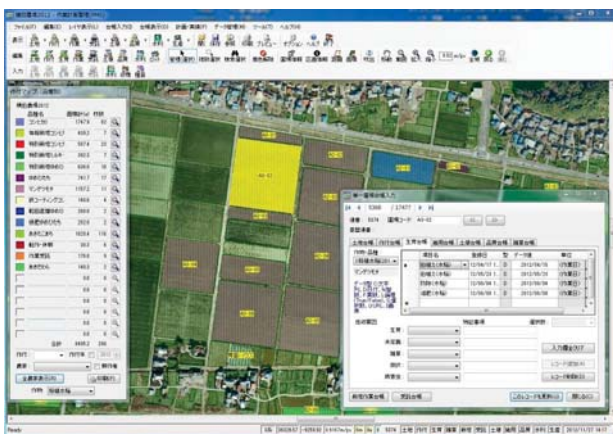
アクション

- 区域の制限
- 機械1台体制
- 直播栽培
- 多品種で作期分散
- 販売チャネルの拡大
- ITの活用、見える化
- 新ライスセンター
- 人材育成
- ファンづくり

課題解決のためのアクションを
効率的かつ効果的にバランス良く実行する

ITを利用した圃場管理

- 380圃場の管理を高精度化し品質収量を向上させる



農産データ集計(11月)の圃場別集計												
圃場(0+月) 圃場データ集計(0+月) 作業日 作業日 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月) 圃場(0+月)												
圃場ID	圃場名	作業日	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)	圃場(0+月)
0001	一番星	09-02	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11
0002	あきたまきち	11-28	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11
0003	シルクアーン	11-28	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11
0004	コンヒカリ	11-28	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11
0005	特産コシヒカリ	11-28	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11
0006	有機コシヒカリ	11-28	11.28	10.98	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11	10.11



直播栽培

- 作期分散（作業ピークの分散）のため。
- 品種と圃場条件により、乾田直播、湛水直播を選択する。



有機栽培、特別栽培

- 販売戦略のため。
- 場合によっては、省力・低コストと両立できる可能性も。



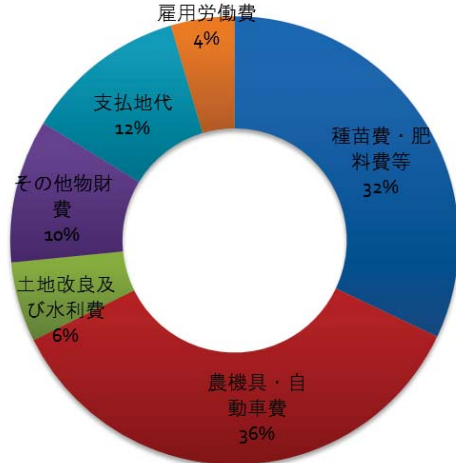
一方で・・・ ～自助努力だけでは超えられない課題～

生産コストの3分の1が地代

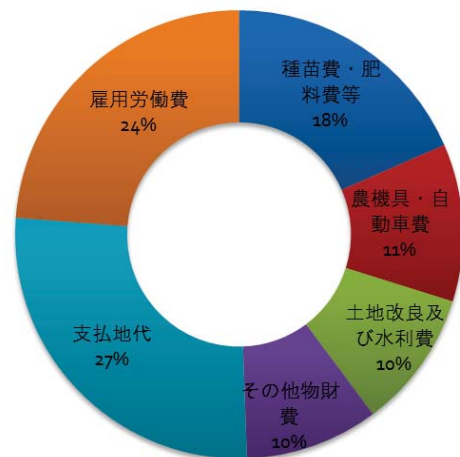
- 米価の下落による、地主との地代の交渉

➡ 地主、耕作者双方が納得できる地代の設定

10aあたり生産費（全国15ha以上層）



横田農場



出典：農林水産省農産物生産費統計（平成24年産米生産費から抽出）、横田農場 平成24年産米の生産費

一方で・・・ ～自助努力だけでは超えられない課題～

生産コストの3分の1が雇用労働費

- 社員一人あたりの耕作面積（現在15ha～20ha/人）をどこまで伸ばせるか。

➡ 集約化・連坦化、圃場の区画拡大
社員の技能向上、人材育成

- 栽培に直接かかわらない作業の負担増



➡ 日本型農業直接支払(多面的機能交付金)等の活用、地域全体で地域農業を守る

これから ～中間管理事業の活用について～

現時点では

- 増える一方の地主（約150人）との契約
- 不在地主の増加による耕作放棄地
- 農地に対する意識の変化
- 地域農業の将来の姿を改めて考えるきっかけに

これから先（期待も込めて）

- 更なるコスト削減と規模拡大には、 中間管理機構による集積と圃場整備の実施
- コスト削減の限界。地代  収量や米価に応じた一律的な地代の設定



15

ご清聴ありがとうございました



16